

牧草と園藝



緑化植生シリーズ(5)

芝生の管理 — 緑を大切に —

芝生は管理次第で美しくもなり、荒れてもしまいます。十分な管理をするためには、面積規模、利用目的、立地条件などに応じてひとつおりの道具立てを準備しておく必要があります。

イ. 刈込み

芝生の刈込みにあたってはよく何日間隔で刈ったらいかとの質問を受けますが、刈取りの間隔は、刈られる葉が1.3~1.8cmになるごとに刈るのがよく、季節により一定ではありません。刈込み回数を省略して伸ばし過ぎると刈りにくくなり、機械を傷めやすくまた刈跡が齊一にならず、芝茎が残って赤茶けた枯葉状を呈してしまいます。

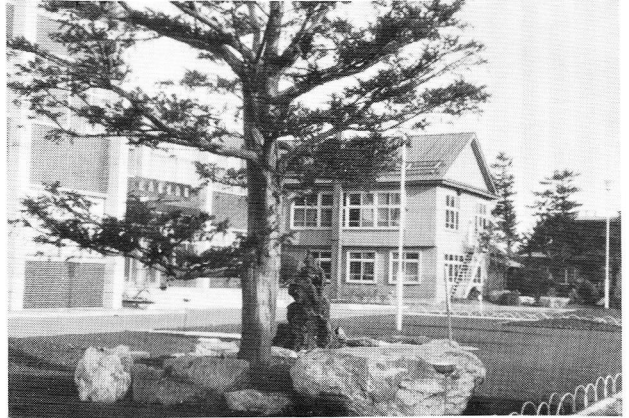
刈高については、通常3~5cmに刈るが、低刈品種は1~3cmとし、ゴルフ場のグリーンでは0.4~0.8cmの低刈りとします。ケンタッキーブルーグラスやファインフェスクのコモンでは低刈りに耐えられないが、低刈り品種を高刈りすると、茎のせり上りが多くなってかえってみにくくなってしまいます。一般にできるだけ低く刈った方が美しい結果を得られます。

ゴルフ場のグリーンでは、特別なグリーンモアを使って低刈りをしますが、通常はローンモアを使います。ローンモア(芝刈機)は刈高を調節できるようになっているので、はじめに決めておきます。芝刈機の選定は、面積に合わせて大きさ、サイズを選ぶべきで、小面積なら20~35cm幅の手押し式でよく、100m²以上となれば30cm幅の電動モアを、500m²以上ではエンジン付モアをとるようにします。モアは刃がよく切れないと葉の切り口が揃わずまたセンイ部が残って汚くなります。調整をよくし、使用後は水洗して手入れすることが大切で使い方にもよりますが、年に2回ラッピングマシンにかけて刃を磨いてもらう必要があります。エンジン付の場合は特に使用後の手入れを忘れてはなりません。

刈取りにあたっては縁を5cm位重なるようにし、刈る方向は毎回一定とせず、逆方向や対角線に刈ることが必要です。同じ方向にばかり刈るといわゆる芝芽にくせができます。刈取られた葉は1.5cm位ならば残してもあまり障害にならないが、長い場合は集めてすてるのが好ましいです。

夏芝は冬季間生育を停止し、地上部は褐変します。春になって再び萌芽してくるときにこの枯葉があると茎がせり上がってマット状となりいわゆる「サッチ」を形成します。このため芝の若返りを考えて2~3月頃奈良の若草山の芝焼きのように、乾燥期に枯葉を焼却する方法がとられます。しかし一時的には一面焼けかすが黒く残ることは止むを得ません。

日本芝や暖地芝では夏期生育が旺盛で、ただ葉の先端だけを刈っているのでは自然にサッチができあがってしまいます。このためパッチカルモアを3~4週間おき



刈込み 肥料の行き届いている芝生

にかけます。少なくとも年に2~3回かけると、土際からの古い茎や葉が櫛で梳(す)かれたように掻き出されてきます。

これを熊手かローンスイーパーで吸取り除去してやると驚くほどの若々しい芝生になります。

パッチカルモアや大型のパッチカルカットマシンをかけたあとは追肥をしたり、状況によってはオーバーシーディング(芝の上から種子を播くこと)をすることもできます。

芝生は刈り込むことにより美しさを維持します。

ロ. 灌水

今年の夏は全国的に旱天が続き特に西洋芝では夏枯れ現象を起こしたところが非常に多かったです。生活飲料水さえ事欠く状況ではとても芝草にまで水をかけてやる余裕のない所もあったでしょうが、設備がないばかりに芝生をみすばらしくしてしまうのは残念なことです。

早魃の場合どの位灌水をしたらよいでしょうか。毎日夕涼みがてらにホースでサーッと水を撒くことは埃止めにもなりみずみずしい感じがしますが、あまり有効な方法ではありません。芝生に必要な灌水量は、スプリンクラーを使って1週間に1回4時間、静かにたっぷり水を施す方がよくこの量は2~3cmとされています。この位の時間をかけると水は深さ15cm位まで滲み透るようになります。灌水した水量を測りたい時は、雑語の空かんを2~3ヵ所置いて、溜った水を測ればよい訳です。

これは原則論であって勿論回数を増やしたり、灌水時間を短くしたりする加減は必要です。保水性の悪い砂地やゴルフ場のバッティンググリーンなどは最近自動灌水装置を設備するところが増えてきました。また運動場公園用或いは家庭用の小型のイリゲーションシステムも開発されて普及するようになってきました。これらのものは設備費はかかりますがタイマーをセットするだけで必要量の水を好きな時間にかけることができます。